

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成26年3月13日 (2014.3.13)

【公開番号】特開2014-14614(P2014-14614A)
 【公開日】平成26年1月30日 (2014.1.30)
 【年通号数】公開・登録公報2014-005
 【出願番号】特願2012-155662(P2012-155662)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 3 4
 A 6 3 F 7/02 3 0 4 D
 A 6 3 F 7/02 3 0 4 Z
 A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】
 【提出日】平成26年1月8日 (2014.1.8)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

各々を識別可能な複数種類の識別情報の可変表示を行ない表示結果を導出表示し、表示結果として予め定められた特定表示結果が導出表示されたときに遊技者にとって有利な特定遊技状態に制御する遊技機であって、

所定の動作を行なう可動部材と、

遊技状態を制御するとともに遊技機で異常が発生したときに異常報知指定コマンドを送信する遊技制御手段と、

前記異常報知指定コマンドを受信する毎に、音声報知手段を制御して、前記異常報知指定コマンドに基づく音声による異常報知を所定の報知許容期間において行なう異常報知制御手段と、

遊技機への電力供給が停止しても所定期間記憶内容を保持可能であり、制御を行なう際に発生する変動データを記憶する変動データ記憶手段と、

遊技機への電力供給が開始されたときに、所定条件の成立に基づいて前記変動データ記憶手段の記憶内容を初期化する初期化処理を実行する初期化手段と、

前記初期化手段によって前記初期化処理が実行されたことに基づいて、初期化報知を実行する初期化報知手段と、

遊技機への電力供給が開始されたことに基づいて、前記可動部材の初期動作を実行する初期動作実行手段とを備え、

前記初期化報知手段は、前記初期化報知の実行中に前記識別情報の可変表示が開始されるときには、当該識別情報の可変表示とともに前記初期化報知を実行し、

前記初期動作実行手段は、

前記初期化報知手段による前記初期化報知の実行を終了した後に、前記可動部材の初期動作を実行し、

前記可動部材の初期動作を開始するにあたって前記識別情報の可変表示が実行されているときには、当該識別情報の可変表示とともに前記可動部材の初期動作を実行し、

前記異常報知制御手段は、前記異常報知指定コマンドを新たに受信した際、前記異常報

知制御手段が先に受信済みの異常報知指定コマンドに基づく異常報知を行なっている場合に、新たに受信した異常報知指定コマンドと先に受信済みの異常報知指定コマンドとの予め定められた優先順位を比較する比較手段を含み、

前記異常報知制御手段は、

前記比較手段によって比較された結果、新たに受信した異常報知指定コマンドと先に受信済みの異常報知指定コマンドとが同じ優先順位である場合または新たに受信した異常報知指定コマンドが先に受信済みの異常報知指定コマンドよりも優先順位が低い場合に、先に受信済みの異常報知指定コマンドに基づく報知が終了した時点で、新たに受信した異常報知指定コマンドに基づいた異常報知の前記報知許容期間が経過していなければ、新たに受信した異常報知指定コマンドに基づく報知を開始し、

前記異常報知指定コマンドを受信した際、前記初期化報知手段が前記初期化報知を実行している場合に、前記初期化報知が終了した時点で、受信した異常報知指定コマンドに基づいた異常報知の前記報知許容期間が経過していなければ、受信した異常報知指定コマンドに基づく報知を開始する、遊技機。

【請求項 2】

各々を識別可能な複数種類の識別情報の可変表示を行ない表示結果を導出表示し、表示結果として予め定められた特定表示結果が導出表示されたときに遊技者にとって有利な特定遊技状態に制御する遊技機であって、

所定の動作を行なう可動部材と、

遊技状態を制御するとともに遊技機で異常が発生したときに異常報知指定コマンドを送信する遊技制御手段と、

前記異常報知指定コマンドを受信する毎に、音声報知手段を制御して、前記異常報知指定コマンドに基づく音声による異常報知を所定の報知許容期間において行なう異常報知制御手段と、

遊技機への電力供給が停止しても所定期間記憶内容を保持可能であり、制御を行なう際に発生する変動データを記憶する変動データ記憶手段と、

遊技機への電力供給が開始されたときに、所定条件の成立に基づいて前記変動データ記憶手段の記憶内容を初期化する初期化処理を実行する初期化手段と、

前記初期化手段によって前記初期化処理が実行されたことに基づいて、初期化報知を実行する初期化報知手段と、

遊技機への電力供給が開始されたことに基づいて、前記可動部材の初期動作を実行する初期動作実行手段とを備え、

前記初期動作実行手段は、

前記初期化報知手段による前記初期化報知の実行を終了した後に、前記可動部材の初期動作を実行し、

前記可動部材の初期動作を開始するにあたって前記識別情報の可変表示が実行されているときには、前記可動部材の初期動作の実行を制限し、

前記異常報知制御手段は、前記異常報知指定コマンドを新たに受信した際、前記異常報知制御手段が先に受信済みの異常報知指定コマンドに基づく異常報知を行なっている場合に、新たに受信した異常報知指定コマンドと先に受信済みの異常報知指定コマンドとの予め定められた優先順位を比較する比較手段を含み、

前記異常報知制御手段は、

前記比較手段によって比較された結果、新たに受信した異常報知指定コマンドと先に受信済みの異常報知指定コマンドとが同じ優先順位である場合または新たに受信した異常報知指定コマンドが先に受信済みの異常報知指定コマンドよりも優先順位が低い場合に、先に受信済みの異常報知指定コマンドに基づく報知が終了した時点で、新たに受信した異常報知指定コマンドに基づいた異常報知の前記報知許容期間が経過していなければ、新たに受信した異常報知指定コマンドに基づく報知を開始し、

前記異常報知指定コマンドを受信した際、前記初期化報知手段が前記初期化報知を実行している場合に、前記初期化報知が終了した時点で、受信した異常報知指定コマンドに

基づいた異常報知の前記報知許容期間が経過していなければ、受信した異常報知指定コマンドに基づく報知を開始する、遊技機。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１０

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１０】

（手段１）本発明による遊技機は、各々を識別可能な複数種類の識別情報（たとえば、演出図柄）の可変表示を行ない表示結果を導出表示し、表示結果として予め定められた特定表示結果（たとえば、大当り図柄）が導出表示されたときに遊技者にとって有利な特定遊技状態（たとえば、大当り遊技状態）に制御する遊技機であって、

所定の動作を行なう可動部材（たとえば、第２の実施の形態における可動部材７８や演出羽根役物７９ａ、７９ｂなどの役物）と、

遊技状態を制御するとともに遊技機で異常（たとえば、図４７、図５７参照）が発生したときに異常報知指定コマンドを送信する遊技制御手段（たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ５６０、特に、図１４のステップＳ２３～ステップＳ２７、ステップＳ４２、図２７、図３１を実行する部分）と、

異常報知指定コマンドを受信する毎に、音声報知手段（たとえば、音声出力基板７０）を制御して、異常報知指定コマンドに基づく音声による異常報知を所定の報知許容期間において行なう異常報知制御手段（たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ１００、特に、図４１、図５０のステップＳ７０７、図４５、図５３のステップＳ３００２、図４５、図５４のステップＳ３０１２、図４６、図５５のステップＳ３０２２、図４６のステップＳ３０２７、図５６のステップＳ３０４２を実行する部分）と、

遊技機への電力供給が停止しても所定期間記憶内容を保持可能であり、制御を行なう際に発生する変動データを記憶する変動データ記憶手段（たとえば、バックアップＲＡＭとしてのＲＡＭ５５）と、

遊技機への電力供給が開始されたときに、所定条件の成立（たとえば、クリアスイッチのオン）に基づいて変動データ記憶手段の記憶内容を初期化する初期化処理を実行する初期化手段（たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ５６０における図１２のステップＳ１０を実行する部分）と、

初期化手段によって初期化処理が実行されたことに基づいて、初期化報知を実行する初期化報知手段（たとえば、第２の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００における図５３のステップＳ３１０１～Ｓ３１１１を実行する部分）と、遊技機への電力供給が開始されたことに基づいて、可動部材の初期動作を実行する初期動作実行手段（たとえば、第２の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００における図５０のステップＳ７０８を実行する部分）とを備え、

初期化報知手段は、初期化報知の実行中に識別情報の可変表示が開始されるときには、当該識別情報の可変表示とともに初期化報知を実行し（たとえば、第２の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、図５１のステップＳ８２６１、図５２のステップＳ８４８１でＹのとき図５１のステップＳ８２６２、図５２のステップＳ８４８２を実行することにより、演出図柄の変動表示を実行する場合であっても初期化報知のランプ表示および音出力を継続する）、

初期動作実行手段は、初期化報知手段による初期化報知の実行を終了した後に、可動部材の初期動作を実行し（たとえば、第２の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、図５８のステップＳ３５０２でＹと判定したことを条件に図５８のステップＳ３５０３以降の処理に移行して役物の初期動作を実行する）、

可動部材の初期動作を開始するにあたって識別情報の可変表示が実行されているときには、当該識別情報の可変表示とともに可動部材の初期動作を実行し（たとえば、第２の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、役物初期動作処理におい

て図 5 8 のステップ S 3 5 0 3 で N のとき演出図柄の変動表示中であるか否かにかかわらず図 5 8 のステップ S 3 5 0 4 以降の処理に移行して役物の初期動作を開始する)、

異常報知制御手段は、異常報知指定コマンドを新たに受信した際、異常報知制御手段が先に受信済みの異常報知指定コマンドに基づく異常報知を行なっている場合に、新たに受信した異常報知指定コマンドと先に受信済みの異常報知指定コマンドとの予め定められた優先順位(たとえば、図 5 7 参照)を比較する比較手段(たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 における図 5 3 のステップ S 3 0 0 1 D、図 5 4 のステップ S 3 0 1 1 D、図 5 5 のステップ S 3 0 2 1 D、図 5 6 のステップ S 3 0 4 1 D を実行する部分)を含み、

異常報知制御手段は、

比較手段によって比較された結果、新たに受信した異常報知指定コマンドと先に受信済みの異常報知指定コマンドとが同じ優先順位である場合または新たに受信した異常報知指定コマンドが先に受信済みの異常報知指定コマンドよりも優先順位が低い場合(たとえば、図 5 3 のステップ S 3 0 0 1、図 5 4 のステップ S 3 0 1 0、図 5 5 のステップ S 3 0 2 0、図 5 6 のステップ S 3 0 4 1 でいずれかの異常報知指定コマンドが受信されたときに、図 5 3 のステップ S 3 0 0 1 C、図 5 4 のステップ S 3 0 1 1 C、図 5 5 のステップ S 3 0 2 1 C、図 5 6 のステップ S 3 0 4 1 C でいずれかの異常が報知中であると判断された場合、図 5 3 のステップ S 3 0 0 1 D、図 5 4 のステップ S 3 0 1 1 D、図 5 5 のステップ S 3 0 2 1 D、図 5 6 のステップ S 3 0 4 1 D で報知中の異常よりも受信された異常報知指定コマンドの異常の優先順位が高くないと判断された場合)に、(たとえば、受信された異常の報知は開始されず保留され、図 5 3 のステップ S 3 0 0 1 G、図 5 4 のステップ S 3 0 1 1 G、ステップ S 3 0 1 4、図 5 5 のステップ S 3 0 2 1 G、ステップ S 3 0 2 5、図 5 6 のステップ S 3 0 4 1 G、ステップ S 3 0 4 4 で異常報知期間のみが開始され、)先に受信済みの異常報知指定コマンドに基づく報知が終了した時点で、新たに受信した異常報知指定コマンドに基づいた異常報知の報知許容期間が経過していなければ(たとえば、図 5 4 のステップ S 3 0 0 6、図 5 5 のステップ S 3 0 1 6、図 5 6 のステップ S 3 0 3 6 で異常報知タイマが減算され、図 5 3 のステップ S 3 0 0 1 A、図 5 4 のステップ S 3 0 1 1 A、図 5 5 のステップ S 3 0 2 1 A、図 5 6 のステップ S 3 0 4 1 A で未だ異常報知期間であると判断されているときに、図 5 3 のステップ S 3 0 0 1 C、図 5 4 のステップ S 3 0 1 1 C、図 5 5 のステップ S 3 0 2 1 C、図 5 6 のステップ S 3 0 4 1 C で優先順位の高い報知中の異常が行なわれていない、つまり終了したと判断された場合)、新たに受信した異常報知指定コマンドに基づく報知を開始し(たとえば、図 5 3 のステップ S 3 0 0 2、図 5 4 のステップ S 3 0 1 2、図 5 5 のステップ S 3 0 2 2、ステップ S 3 0 2 3、図 5 6 のステップ S 3 0 4 2 で開始が保留されていた異常報知が開始される。)、

異常報知指定コマンドを受信した際、初期化報知手段が初期化報知を実行している場合(たとえば、図 5 3 のステップ S 3 0 0 1、図 5 4 のステップ S 3 0 1 0、図 5 5 のステップ S 3 0 2 0、図 5 6 のステップ S 3 0 4 1 でいずれかの異常報知指定コマンドが受信されたときに、図 5 3 のステップ S 3 0 0 1 B、図 5 4 のステップ S 3 0 1 1 B、図 5 5 のステップ S 3 0 2 1 B、図 5 6 のステップ S 3 0 4 1 B で初期化報知中であると判断された場合)に、(たとえば、受信された異常の報知は開始されず保留され、図 5 3 のステップ S 3 0 0 1 G、図 5 4 のステップ S 3 0 1 1 G、ステップ S 3 0 1 4、図 5 5 のステップ S 3 0 2 1 G、ステップ S 3 0 2 5、図 5 6 のステップ S 3 0 4 1 G、ステップ S 3 0 4 4 で異常報知期間のみが開始され、)初期化報知が終了した時点で、受信した異常報知指定コマンドに基づいた異常報知の報知許容期間が経過していなければ(たとえば、図 5 4 のステップ S 3 0 0 6、図 5 5 のステップ S 3 0 1 6、図 5 6 のステップ S 3 0 3 6 で異常報知タイマが減算され、図 5 3 のステップ S 3 0 0 1 A、図 5 4 のステップ S 3 0 1 1 A、図 5 5 のステップ S 3 0 2 1 A、図 5 6 のステップ S 3 0 4 1 A で未だ異常報知期間であると判断されているときに、図 5 3 のステップ S 3 0 0 1 B、図 5 4 のステップ S 3 0 1 1 B、図 5 5 のステップ S 3 0 2 1 B、図 5 6 のステップ S 3 0 4 1 B で初期

化報知中でない、つまり初期化報知が終了したと判断された場合)、受信した異常報知指定コマンドに基づく報知を開始する(たとえば、図53のステップS3002、図54のステップS3012、図55のステップS3022、ステップS3023、図56のステップS3042で開始が保留されていた異常報知が開始される。))。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

そのような構成により、初期化処理が実行されたときに初期化報知と可動部材の初期動作とにかかる電力消費を分散することができる。また、識別情報の可変表示が実行される場合であっても初期化報知や可動部材の初期動作を実行することができる。

(手段2)本発明による遊技機の他の態様は、各々を識別可能な複数種類の識別情報(たとえば、演出図柄)の可変表示を行ない表示結果を導出表示し、表示結果として予め定められた特定表示結果(たとえば、大当たり図柄)が導出表示されたときに遊技者にとって有利な特定遊技状態(たとえば、大当たり遊技状態)に制御する遊技機であって、

所定の動作を行なう可動部材(たとえば、第2の実施の形態および第3の実施の形態における可動部材78や演出羽根役物79a、79bなどの役物)と、

遊技状態を制御するとともに遊技機で異常(たとえば、図47、図57参照)が発生したときに異常報知指定コマンドを送信する遊技制御手段(たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ560、特に、図14のステップS23~ステップS27、ステップS42、図27、図31を実行する部分)と、

異常報知指定コマンドを受信する毎に、音声報知手段(たとえば、音声出力基板70)を制御して、異常報知指定コマンドに基づく音声による異常報知を所定の報知許容期間において行なう異常報知制御手段(たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ100、特に、図41、図50のステップS707、図45、図53のステップS3002、図45、図54のステップS3012、図46、図55のステップS3022、図46のステップS3027、図56のステップS3042を実行する部分)と、

遊技機への電力供給が停止しても所定期間記憶内容を保持可能であり、制御を行なう際に発生する変動データを記憶する変動データ記憶手段(たとえば、バックアップRAMとしてのRAM55)と、

遊技機への電力供給が開始されたときに、所定条件の成立(たとえば、クリアスイッチのオン)に基づいて変動データ記憶手段の記憶内容を初期化する初期化処理を実行する初期化手段(たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ560における図12のステップS10を実行する部分)と、

初期化手段によって初期化処理が実行されたことに基づいて、初期化報知を実行する初期化報知手段(たとえば、第2の実施の形態および第3の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ100における図53のステップS3101~S3111を実行する部分)と、

遊技機への電力供給が開始されたことに基づいて、可動部材の初期動作を実行する初期動作実行手段(たとえば、第2の実施の形態および第3の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ100における図50のステップS708を実行する部分)とを備え、

初期動作実行手段は、初期化報知手段による初期化報知の実行を終了した後に、可動部材の初期動作を実行し(たとえば、第2の実施の形態および第3の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ100は、図58、図59のステップS3502でYと判定したことを条件に図58、図59のステップS3503以降の処理に移行して役物の初期動作を実行する)、

可動部材の初期動作を開始するにあたって識別情報の可変表示が実行されているときに

は、可動部材の初期動作の実行を制限し（たとえば、第3の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ100は、役物初期動作処理において図59のステップS3503AでYのとき図59のステップS3504以降の処理に移行せず、役物の初期動作を開始しない）、

異常報知制御手段は、異常報知指定コマンドを新たに受信した際、異常報知制御手段が先に受信済みの異常報知指定コマンドに基づく異常報知を行なっている場合に、新たに受信した異常報知指定コマンドと先に受信済みの異常報知指定コマンドとの予め定められた優先順位（たとえば、図57参照）を比較する比較手段（たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ100における図53のステップS3001D、図54のステップS3011D、図55のステップS3021D、図56のステップS3041Dを実行する部分）を含み、

異常報知制御手段は、

比較手段によって比較された結果、新たに受信した異常報知指定コマンドと先に受信済みの異常報知指定コマンドとが同じ優先順位である場合または新たに受信した異常報知指定コマンドが先に受信済みの異常報知指定コマンドよりも優先順位が低い場合（たとえば、図53のステップS3001、図54のステップS3010、図55のステップS3020、図56のステップS3041でいずれかの異常報知指定コマンドが受信されたときに、図53のステップS3001C、図54のステップS3011C、図55のステップS3021C、図56のステップS3041Cでいずれかの異常が報知中であると判断された場合、図53のステップS3001D、図54のステップS3011D、図55のステップS3021D、図56のステップS3041Dで報知中の異常よりも受信された異常報知指定コマンドの異常の優先順位が高くないと判断された場合）に、（たとえば、受信された異常の報知は開始されず保留され、図53のステップS3001G、図54のステップS3011G、ステップS3014、図55のステップS3021G、ステップS3025、図56のステップS3041G、ステップS3044で異常報知期間のみが開始され、）先に受信済みの異常報知指定コマンドに基づく報知が終了した時点で、新たに受信した異常報知指定コマンドに基づいた異常報知の報知許容期間が経過していなければ（たとえば、図54のステップS3006、図55のステップS3016、図56のステップS3036で異常報知タイマが減算され、図53のステップS3001A、図54のステップS3011A、図55のステップS3021A、図56のステップS3041Aで未だ異常報知期間であると判断されているときに、図53のステップS3001C、図54のステップS3011C、図55のステップS3021C、図56のステップS3041Cで優先順位の高い報知中の異常が行なわれていない、つまり終了したと判断された場合）、新たに受信した異常報知指定コマンドに基づく報知を開始し（たとえば、図53のステップS3002、図54のステップS3012、図55のステップS3022、ステップS3023、図56のステップS3042で開始が保留されていた異常報知が開始される。）、

異常報知指定コマンドを受信した際、初期化報知手段が初期化報知を実行している場合（たとえば、図53のステップS3001、図54のステップS3010、図55のステップS3020、図56のステップS3041でいずれかの異常報知指定コマンドが受信されたときに、図53のステップS3001B、図54のステップS3011B、図55のステップS3021B、図56のステップS3041Bで初期化報知中であると判断された場合）に、（たとえば、受信された異常の報知は開始されず保留され、図53のステップS3001G、図54のステップS3011G、ステップS3014、図55のステップS3021G、ステップS3025、図56のステップS3041G、ステップS3044で異常報知期間のみが開始され、）初期化報知が終了した時点で、受信した異常報知指定コマンドに基づいた異常報知の報知許容期間が経過していなければ（たとえば、図54のステップS3006、図55のステップS3016、図56のステップS3036で異常報知タイマが減算され、図53のステップS3001A、図54のステップS3011A、図55のステップS3021A、図56のステップS3041Aで未だ異常報

知期間であると判断されているときに、図53のステップS3001B、図54のステップS3011B、図55のステップS3021B、図56のステップS3041Bで初期化報知中でない、つまり初期化報知が終了したと判断された場合）、受信した異常報知指定コマンドに基づく報知を開始する（たとえば、図53のステップS3002、図54のステップS3012、図55のステップS3022、ステップS3023、図56のステップS3042で開始が保留されていた異常報知が開始される。）。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

そのような構成により、初期化処理が実行されたときに初期化報知と可動部材の初期動作とにかかる電力消費を分散することができる。また、識別情報の可変表示が実行される場合であっても可動部材の初期動作を実行することができる。

（手段3）本発明による遊技機のさらに他の態様は、遊技媒体（たとえば、遊技球）の入賞によって遊技価値を付与可能な入賞領域（たとえば、始動入賞口14、大入賞口）を有する遊技機であって、入賞領域に入賞した遊技媒体を検出可能な入賞検出部（たとえば、始動口スイッチ14a、カウントスイッチ23）と、入賞領域に入賞した後に入賞検出部を通過した遊技媒体を検出可能な入賞確認部（たとえば、入賞確認1スイッチ14b、入賞確認2スイッチ23b）と、入賞検出部で検出された遊技媒体の数と入賞確認部で検出された遊技媒体の数との差分が所定数（たとえば、10個）以上となる差分異常（たとえば、排出異常）が発生したことに基づいて、異常情報（たとえば、セキュリティ信号）を外部出力する外部出力手段（たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS1068A～S1068C、S1102、S1103を実行する部分）と、差分異常が発生したことに基づいて異常報知（たとえば、排出異常報知）を実行する異常報知手段（たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS3001～S3003を実行する部分）と、遊技機への電力供給が停止しても少なくとも差分異常が発生したことを示す情報（たとえば、排出異常フラグ）を所定期間保持可能な記憶手段（たとえば、バックアップRAMとしてのRAM55）と、遊技機への電力供給が開始されたときに、所定条件の成立（たとえば、クリアスイッチのオン）に基づいて記憶手段の記憶内容を初期化する初期化処理を実行する初期化手段（たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS10を実行する部分）とを備え、外部出力手段は、異常情報を外部出力しているときに遊技機への電力供給が停止し電力供給が再開された場合には、初期化手段によって初期化処理が実行されたか否かに応じて、遊技機への電力供給が再開されてから異なる期間にわたって異常情報を外部出力し（たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、初期化処理を実行した場合には、ステップS14aでセキュリティ信号情報タイマをセットしたことに基づいて、ステップS1069～S1074、S1102、S1103を実行して、セキュリティ信号を30秒間出力し、初期化処理を実行せずにステップS91、92の停電復帰処理を実行した場合には、排出異常フラグがバックアップRAMにバックアップされていることに基づいて、ステップS1068A～S1068C、S1102、S1103を実行して、次に初期化処理が実行されるまでセキュリティ信号の出力を継続する）、異常報知手段は、異常報知を実行しているときに遊技機への電力供給が停止し、初期化手段によって初期化処理が実行されることなく遊技機への電力供給が再開された場合には、異常報知を実行しない（たとえば、排出異常報知の実行中に電源供給が停止しても、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、遊技機への電源供給の再開後に排出異常報知指定コマンドを再送するなどの処理を行わず、演出制御用マイクロコンピュータ100は、電源復旧後には排出異常報知を再開しない）ことを特徴とする。そのような構成により、異常報知を実行しているときに遊技機への電力供給が停止して再度電力供給が開始されたときに、初期化処理を実行して遊技機が起動

した場合であるか、差分異常の発生後に遊技機が再起動した場合であることを外部から認識可能とすることができる。

(手段4) 手段3において、外部出力手段は、異常情報を外部出力しているときに遊技機への電力供給が停止し電力供給が再開された場合に、初期化手段によって初期化処理が実行された場合には所定期間(たとえば、30秒間)が経過するまで異常情報を外部出力し(たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、初期化処理を実行した場合には、ステップS14aでセキュリティ信号情報タイマをセットしたことに基づいて、ステップS1069~S1074, S1102, S1103を実行して、セキュリティ信号を30秒間出力する)、初期化手段によって初期化処理が実行されなかった場合には初期化処理が実行されるまで異常情報を外部出力する(たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、初期化処理を実行せずにステップS91, 92の停電復帰処理を実行した場合には、排出異常フラグがバックアップRAMにバックアップされていることに基づいて、ステップS1068A~S1068C, S1102, S1103を実行して、次に初期化処理が実行されるまでセキュリティ信号の出力を継続する)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、初期化処理を実行して遊技機が起動した場合であるか、差分異常の発生後に遊技機が再起動した場合であることを容易に外部から認識可能とすることができる。

(手段5) 手段3または手段4において、入賞領域に遊技媒体が入賞不可能な閉鎖状態と遊技媒体が入賞容易な開放状態とに変化可能な可変入賞装置(たとえば、可変入賞球装置15、特別可変入賞球装置20)と、可変入賞装置が閉鎖状態であるときに入賞領域に遊技媒体が入賞する異常入賞が発生したか否かを判定する異常入賞判定手段(たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS251~S254, S261~S264を実行する部分)とを備え、外部出力手段は、異常入賞判定手段によって異常入賞が発生したと判定された場合にも、差分異常が発生した場合と共通の出力端子(たとえば、ターミナル基板160の共通のコネクタCN8)を用いて異常情報(たとえば、セキュリティ信号)を外部出力可能であり(たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS255, S265, S1069~S1074, S1102, S1103を実行する部分)、異常入賞が発生したことに基づいて異常情報を外部出力しているときに差分異常が発生した場合には、差分異常の発生に基づく異常情報の外部出力の制御に切り替える(たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、ステップS1069~S1074, S1102, S1103の処理を実行してセキュリティ信号を出力しているときに、排出異常フラグがセットされた場合には、以降、ステップS1068A~S1068C, S1102, S1103の処理を実行してセキュリティ信号を出力する制御に切り替える)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、差分異常の発生だけでなく異常入賞の発生も外部から認識可能とするとともに、出力端子の共通化によって差分異常や異常入賞の発生を認識可能とするための機構の部品数の増加や配線作業の複雑化を防ぐことができる。

(手段6) 手段3から手段5のうちのいずれかにおいて、入賞領域に遊技媒体が入賞不可能な閉鎖状態と遊技媒体が入賞容易な開放状態とに変化可能な可変入賞装置(たとえば、可変入賞球装置15、特別可変入賞球装置20)と、可変入賞装置が閉鎖状態であるときに入賞領域に遊技媒体が入賞する異常入賞が発生したか否かを判定する異常入賞判定手段(たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS251~S254, S261~S264を実行する部分)とを備え、異常報知手段は、異常入賞判定手段によって異常入賞が発生したと判定された場合にも異常報知(たとえば、異常入賞1報知、異常入賞2報知)を実行可能であり(たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS3005~S3025を実行する部分)、異常入賞が発生した場合には、第1態様の異常報知を実行し(たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、ステップS3012を実行することによりランプのみを用いた異常入賞1報知を実行する)、差分異常が発生した場合には、第1態様と比較して外部から認識しやすい第2態様の異常報知を実行する(たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、ステッ

ブ S 3 0 2 2 , S 3 0 2 3 を実行することによりランプおよび音を用いた異常入賞 2 報知を実行する) ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、緊急性が高い差分異常をより目立つ態様で報知することができる。

(手段 7) 本発明による遊技機のさらに他の態様は、遊技媒体(たとえば、遊技球)の入賞によって遊技価値を付与可能な入賞領域(たとえば、始動入賞口 1 4、大入賞口)を有する遊技機であって、入賞領域に入賞した遊技媒体を検出可能な入賞検出部(たとえば、始動口スイッチ 1 4 a、カウントスイッチ 2 3)と、入賞領域に入賞した後に入賞検出部を通過した遊技媒体を検出可能な入賞確認部(たとえば、入賞確認 1 スwitch 1 4 b、入賞確認 2 スwitch 2 3 b)と、入賞領域に遊技媒体が入賞不可能な閉鎖状態と遊技媒体が入賞容易な開放状態とに変化可能な可変入賞装置(たとえば、可変入賞球装置 1 5、特別可変入賞球装置 2 0)と、可変入賞装置が閉鎖状態であるときに入賞領域に遊技媒体が入賞する異常入賞が発生したか否かを判定する異常入賞判定手段(たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 におけるステップ S 2 5 1 ~ S 2 5 4 , S 2 6 1 ~ S 2 6 4 を実行する部分)と、入賞検出部で検出された遊技媒体の数と入賞確認部で検出された遊技媒体の数との差分が所定数(たとえば、1 0 個)以上となる差分異常(たとえば、排出異常)が発生したことに基づいて、異常情報(たとえば、セキュリティ信号)を外部出力する外部出力手段(たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 におけるステップ S 1 0 6 8 A ~ S 1 0 6 8 C , S 1 1 0 2 , S 1 1 0 3 を実行する部分)と、異常入賞判定手段が異常入賞が発生したと判定したことに基づいて異常入賞報知(たとえば、異常入賞 1 報知、異常入賞 2 報知)を実行する異常入賞報知手段(たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 におけるステップ S 3 0 0 5 ~ S 3 0 2 5 を実行する部分)と、差分異常が発生したことに基づいて異常報知(たとえば、排出異常報知)を実行する異常報知手段(たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 におけるステップ S 3 0 0 1 ~ S 3 0 0 3 を実行する部分)と、遊技機への電力供給が停止しても少なくとも差分異常が発生したことを示す情報(たとえば、排出異常フラグ)を所定期間保持可能な記憶手段(たとえば、バックアップ RAM としての RAM 5 5)と、遊技機への電力供給が開始されたときに、所定条件の成立(たとえば、クリアスイッチのオン)に基づいて記憶手段の記憶内容を初期化する初期化処理を実行する初期化手段(たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 におけるステップ S 1 0 を実行する部分)とを備え、外部出力手段は、異常情報を外部出力しているときに遊技機への電力供給が停止し電力供給が再開された場合には、初期化手段によって初期化処理が実行されたか否かに応じて、遊技機への電力供給が再開されてから異なる期間にわたって異常情報を外部出力し(たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、初期化処理を実行した場合には、ステップ S 1 4 a でセキュリティ信号情報タイマをセットしたことに基づいて、ステップ S 1 0 6 9 ~ S 1 0 7 4 , S 1 1 0 2 , S 1 1 0 3 を実行して、セキュリティ信号を 3 0 秒間出力し、初期化処理を実行せずにステップ S 9 1 , 9 2 の停電復帰処理を実行した場合には、排出異常フラグがバックアップ RAM にバックアップされていることに基づいて、ステップ S 1 0 6 8 A ~ S 1 0 6 8 C , S 1 1 0 2 , S 1 1 0 3 を実行して、次に初期化処理が実行されるまでセキュリティ信号の出力を継続する)、異常入賞報知手段は、可変入賞装置が閉鎖状態であるときに入賞領域に遊技媒体が第 1 所定数(たとえば、2 0 個)入賞した場合には、第 1 態様の異常入賞報知を実行し(たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、ステップ S 3 0 1 2 を実行することによりランプのみを用いた異常入賞 1 報知を実行する)、可変入賞装置が閉鎖状態であるときに入賞領域に遊技媒体が第 1 所定数より多い第 2 所定数(たとえば、5 0 個)入賞した場合には、第 1 態様とは異なる第 2 態様の異常入賞報知を実行し(たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、ステップ S 3 0 2 2 , S 3 0 2 3 を実行することによりランプおよび音を用いた異常入賞 2 報知を実行する)、異常報知手段は、異常報知を実行しているときに遊技機への電力供給が停止し、初期化手段によって初期化処理が実行されることなく遊技機への電力供給が再開された場合には、異常報知を実行しない(たとえば、排出異常報知の実行中に電源供給が停止しても、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、遊技機への電源供給の再開後に排出異常報

知指定コマンドを再送するなどの処理を行わず、演出制御用マイクロコンピュータ100は、電源復旧後には排出異常報知を再開しない)ことを特徴とする。そのような構成により、異常報知を実行しているときに遊技機への電力供給が停止して再度電力供給が開始されたときに、初期化処理を実行して遊技機が起動した場合であるか、差分異常の発生後に遊技機が再起動した場合であるかを外部から認識可能とすることができる。

(手段8)手段7において、異常入賞報知手段は、第1態様の異常入賞報知として第1演出手段(たとえば、ランプ)を用いた異常入賞報知を実行し(たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、ステップS3012を実行することによりランプのみを用いた異常入賞1報知を実行する)、第2態様の異常入賞報知として第1演出手段(たとえば、ランプ)および第2演出手段(たとえば、スピーカ27)を用いた異常入賞報知を実行する(たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、ステップS3022, S3023を実行することによりランプおよび音を用いた異常入賞2報知を実行する)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、可変入賞装置が閉鎖状態であるときに入賞領域へのより多くの入賞を検出した緊急性が高い異常入賞をより目立つ態様で報知することができる。

(手段9)本発明による遊技機のさらに他の態様は、遊技媒体(たとえば、遊技球)の入賞によって遊技価値を付与可能な入賞領域(たとえば、始動入賞口14、大入賞口)を有する遊技機であって、入賞領域に入賞した遊技媒体を検出可能な入賞検出部(たとえば、始動口スイッチ14a、カウントスイッチ23)と、入賞領域に入賞した後に入賞検出部を通過した遊技媒体を検出可能な入賞確認部(たとえば、入賞確認1スイッチ14b、入賞確認2スイッチ23b)と、入賞領域に遊技媒体が入賞不可能な閉鎖状態と遊技媒体が入賞容易な開放状態とに変化可能な可変入賞装置(たとえば、可変入賞球装置15、特別可変入賞球装置20)と、可変入賞装置が閉鎖状態であるときに入賞領域に遊技媒体が入賞する異常入賞が発生したか否かを判定する異常入賞判定手段(たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS251~S254, S261~S264を実行する部分)と、入賞検出部で検出された遊技媒体の数と入賞確認部で検出された遊技媒体の数との差分が所定数(たとえば、10個)以上となる差分異常(たとえば、排出異常)が発生したことに基づいて、異常情報(たとえば、セキュリティ信号)を外部出力する外部出力手段(たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS1068A~S1068C, S1102, S1103を実行する部分)と、異常入賞判定手段が異常入賞が発生したと判定したことに基づいて異常入賞報知(たとえば、異常入賞1報知、異常入賞2報知)を実行する異常入賞報知手段(たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS3005~S3025を実行する部分)と、差分異常が発生したことに基づいて異常報知(たとえば、排出異常報知)を実行する異常報知手段(たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS3001~S3003を実行する部分)と、遊技機への電力供給が停止しても少なくとも差分異常が発生したことを示す情報(たとえば、排出異常フラグ)を所定期間保持可能な記憶手段(たとえば、バックアップRAMとしてのRAM55)と、遊技機への電力供給が開始されたときに、所定条件の成立(たとえば、クリアスイッチのオン)に基づいて記憶手段の記憶内容を初期化する初期化処理を実行する初期化手段(たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS10を実行する部分)とを備え、外部出力手段は、異常情報を外部出力しているときに遊技機への電力供給が停止し電力供給が再開された場合には、初期化手段によって初期化処理が実行されたか否かに応じて、遊技機への電力供給が再開されてから異なる期間にわたって異常情報を外部出力し(たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、初期化処理を実行した場合には、ステップS14aでセキュリティ信号情報タイマをセットしたことに基づいて、ステップS1069~S1074, S1102, S1103を実行して、セキュリティ信号を30秒間出力し、初期化処理を実行せずにステップS91, 92の停電復帰処理を実行した場合には、排出異常フラグがバックアップRAMにバックアップされていることに基づいて、ステップS1068A~S1068C, S1102, S1103を実行して、次に初期化処理が実行されるま

でセキュリティ信号の出力を継続する)、異常入賞報知手段は、可変入賞装置が閉鎖状態であるときに入賞領域に遊技媒体が第1所定数(たとえば、20個)入賞した場合には、異常入賞が発生したと判定されてから所定期間(たとえば、31秒間)経過後に異常入賞報知の実行を終了し(たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、ステップS3005~S3014を実行することにより異常入賞1報知を31秒間実行する)、可変入賞装置が閉鎖状態であるときに入賞領域に遊技媒体が第1所定数より多い第2所定数(たとえば、50個)入賞した場合には、異常入賞が発生したと判定されてから所定期間よりも長い特定期間(たとえば、300秒間)経過後に異常入賞報知の実行を終了し(たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、ステップS3015~S3025を実行することにより異常入賞2報知を300秒間実行する)、異常報知手段は、異常報知を実行しているときに遊技機への電力供給が停止し、初期化手段によって初期化処理が実行されることなく遊技機への電力供給が再開された場合には、異常報知を実行しない(たとえば、排出異常報知の実行中に電源供給が停止しても、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、遊技機への電源供給の再開後に排出異常報知指定コマンドを再送するなどの処理を行わず、演出制御用マイクロコンピュータ100は、電源復旧後には排出異常報知を再開しない)ことを特徴とする。そのような構成により、異常報知を実行しているときに遊技機への電力供給が停止して再度電力供給が開始されたときに、初期化処理を実行して遊技機が起動した場合であるか、差分異常の発生後に遊技機が再起動した場合であるかを外部から認識可能とすることができる。

(手段10)手段9において、異常入賞報知手段は、所定期間が経過するまで異常入賞報知を実行する場合には、第1演出手段(たとえば、ランプ)を用いた異常入賞報知を実行し(たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、ステップS3012を実行することによりランプのみを用いた異常入賞1報知を実行する)、特定期間が経過するまで異常入賞報知を実行する場合には、第1演出手段(たとえば、ランプ)および第2演出手段(たとえば、スピーカ27)を用いた異常入賞報知を実行する(たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、ステップS3022, S3023を実行することによりランプおよび音を用いた異常入賞2報知を実行する)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、可変入賞装置が閉鎖状態であるときに入賞領域へのより多くの入賞を検出した緊急性が高い異常入賞をより目立つ態様で報知することができる。

(手段11)本発明による遊技機のさらに他の態様は、所定の遊技を実行可能な遊技機であって、所定の動作を行なう可動部材(たとえば、第2の実施の形態における可動部材78や演出羽根役物79a, 79bなどの役物)と、遊技機への電力供給が停止しても所定期間記憶内容を保持可能であり、制御を行なう際に発生する変動データを記憶する変動データ記憶手段(たとえば、バックアップRAMとしてのRAM55)と、遊技機への電力供給が開始されたときに、所定条件の成立(たとえば、クリアスイッチのオン)に基づいて変動データ記憶手段の記憶内容を初期化する初期化処理を実行する初期化手段(たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS10を実行する部分)と、初期化手段によって初期化処理が実行されたことに基づいて、初期化報知を実行する初期化報知手段(たとえば、第2の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS3101~S3111を実行する部分)と、遊技機への電力供給が開始されたことに基づいて、可動部材の初期動作を実行する初期動作実行手段(たとえば、第2の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS708を実行する部分)とを備え、初期動作実行手段は、初期化報知手段による初期化報知の実行を終了した後に、可動部材の初期動作を実行する(たとえば、第2の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ100は、ステップS3502でYと判定したことを条件にステップS3503以降の処理に移行して役物の初期動作を実行する)ことを特徴とする。そのような構成により、初期化処理が実行されたときに初期化報知と可動部材の初期動作とにかかる電力消費を分散することができる。

(手段12)手段11において、遊技中に少なくとも音出力手段(たとえば、スピーカ27)を用いた音出力による演出(たとえば、音出力を伴う演出図柄の変動表示)を実行可

能な演出実行手段（たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ１００におけるステップＳ８０１～Ｓ８０３を実行する部分）を備え、初期化報知手段は、音出力手段を用いた音出力を伴う初期化報知を実行し（たとえば、第２の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、ステップＳ３１０８を実行して、音を用いた初期化報知を実行する）、演出実行手段は、初期化報知が実行されているときには、音出力手段を用いた音出力による演出を実行しない（たとえば、第２の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、ステップＳ８２６１，Ｓ８４８１でＹのときステップＳ８２６２，Ｓ８４８２を実行することにより、演出図柄の変動表示を実行する場合であっても初期化報知の音出力を継続する）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、初期化報知と音出力手段を用いた音出力による演出とが重複したタイミングで実行されることを防止し、電力消費が集中してしまうことを防止することができる。

（手段１３）手段１１または手段１２において、遊技中に少なくとも発光手段（たとえば、ランプ）を用いた発光表示による演出（たとえば、ランプ表示を伴う演出図柄の変動表示）を実行可能な演出実行手段（たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ１００におけるステップＳ８０１～Ｓ８０３を実行する部分）を備え、初期化報知手段は、発光手段を用いた発光表示を伴う初期化報知を実行し（たとえば、第２の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、ステップＳ３１０９を実行して、ランプを用いた初期化報知を実行する）、演出実行手段は、初期化報知が実行されているときには、発光手段を用いた発光表示による演出を実行しない（たとえば、第２の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、ステップＳ８２６１，Ｓ８４８１でＹのときステップＳ８２６２，Ｓ８４８２を実行することにより、演出図柄の変動表示を実行する場合であっても初期化報知のランプ表示を継続する）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、初期化報知と発光手段を用いた発光表示による演出とが重複したタイミングで実行されることを防止し、電力消費が集中してしまうことを防止することができる。